

1 実施概要

この全国学力・学習状況調査は、文部科学省が全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、教育施策の成果と課題を検証し改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や改善に役立てることを目的として、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、平成19年度から実施されています。今年度は6回目の悉皆調査となり、本市では、小学生675名、中学生590名が参加して、平成27年4月21日に調査が行われました。内容としては、国語と算数・数学、理科の教科に関する調査と、学習習慣や生活状況等について尋ねる児童・生徒質問紙調査となっています。

2 学力調査の概要

【全般的な概要】

- 小学校については、国語・算数共に、A問題（主として「知識」に関する問題）・B問題（主として「活用」に関する問題）で、平均正答率が全国平均・府平均を上回っています。調査開始以来、高い学力状況にあります。初めて悉皆調査が行われた理科についても、高い学力状況にあります。
- 中学校国語については、A問題・B問題ともに、平成27年度は平均正答率が全国平均を少し上回っており、全国と比べほぼ同等の学力水準にあります。数学については、A問題・B問題ともに、平均正答率が全国平均を上回っており、高い学力状況にあります。理科については、平均正答率が全国平均・府平均より低い結果となっており、課題が見られました。
- 全国的な傾向と同様、A問題に比べB問題の正答率が低い状況にあり、「活用」する力の育成に向けて、今後も授業改善等に取り組んでいくことが必要であると考えています。

【国語の概要】

- 小学校では、漢字の読み書きや、目的に応じ中心となる語や文、内容を捉えることについてよくできていましたが、文章中の主語を捉える問題に課題が見られました。B問題では、文章と図を関連づけて、自分の考えを書くことに課題が見られました。
- 中学校では、A問題で、文学的な文章を読むことに関してよくできていました。B問題では、複数の資料から適切な情報を得て自分の考えを書くことや、根拠を明確にして書くことに課題が見られました。

【算数・数学の概要】

- 小学校では、「数と計算」と「数量関係」の領域がよくできていましたが、図形の領域で課題が見られました。B問題では、図形の性質を活用して考える問題や割合を用いる問題、言葉や数を用い理由を記述することに課題が見られました。
- 中学校では、正負の数の計算や方程式を解く問題がよくできていました。B問題は、全国的に正答率が低く、中でも事柄が成り立つ理由や問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られました。

【理科の概要】

- 小学校では、自然事象についての知識・理解についてよくできていましたが、実験器具の名称や操作方法の理解に課題が見られました。また、考察したことを記述する問題に課題が見られました。
- 中学校では、化学式の表し方についてよくできていましたが、実験を計画する問題や実験結果を分析して解釈する問題、理由を説明したり考察を記述したりする問題に課題が見られました。

3 質問紙調査の概要

【生活習慣について】

小学校では、「毎日、朝食を食べる」、「起床・就寝時刻が決まっている」など、基本的な生活習慣が身についている児童の割合が高くなっています。中学校でも比較的良い習慣が身に付いています。また、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と答えた児童生徒が多く、充実した生活を送っていることがうかがえます。

携帯電話やスマートフォンを持っている割合は、全国の傾向と同様に中学校で高くなっており、使用する時間については長くなっています。

【学習習慣について】

小学校では、家庭学習(宿題)によく取り組んでいます。中学校では、学習時間が30分未満の生徒の割合は減ってきていますが、特に土・日の学習時間に課題が見られました。また、「読書は好きですか」の質問については、小・中学校共に全国と比べ低い結果となっていますが、小学校では読書時間や図書館・図書室を利用する児童が増え、中学校でも「読書が好き」と答える生徒が増えています。

【自分自身に関することについて】

「人の気持ちがわかる人間になりたい」、「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童・生徒の割合が高く、前向きな意識を持って生活していることがうかがえます。しかし、「自分には良いところがある」と答えた割合は、全国と比べ小学校で高くなっていますが、小学校・中学校ともにあまり高くありません。

【地域・社会との関わりについて】

「今すんでいる地域の行事に参加している」と答えた割合は、小学校でたいへん高くなっていますが、中学校では低くなっています。「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」や「新聞を読んでいますか」等の質問については、全国の傾向と同じく小・中学校共にあまり高くありません。

【その他】

発表の機会を設けたり、授業のはじめに目標の提示をしたりするなど、授業の改善は見られますが、「国語・算数(数学)・理科は好きですか」の質問に見られる学習への関心は、小・中学校共に低い結果が出ています。

4 調査結果の分析を踏まえた今後の改善方策

- 基礎学力の定着を図ると共に、様々な意見をしっかり聞き自分の考えをまとめて書く力や、根拠を持って分かりやすく説明する力を伸ばす授業の工夫やグループでの学習活動など、言語活動の充実を進めていきます。
- 家庭学習や読書の時間と学力には、強い相関が見られます。家庭学習に取り組む児童・生徒は増えていますが、引き続き、家庭学習の内容や学習の進め方についての指導を工夫していきます。家庭におかれましても、帰宅後の時間の使い方について話し合うなど、家庭学習の習慣化に向けご協力をお願いします。
- B問題では、特に情報を取り出し、整理し、活用していく問題に課題が見られました。学校では、本やインターネットを使った調べ学習や、子どもたちが主体的に取り組む探究的な学習の工夫に力を入れていきます。また、読書への関心を高めるために、本に親しむ活動にも工夫して取り組んでいきます。

教育委員会では、子どもたちに、学校や家庭・地域の中で、多様な力を身につけ大きく成長して欲しいと考えています。本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面ではありますが、児童生徒一人一人の学びを充実させ、「生きる力」を育むために、調査結果を有効に活用し、一層の学力充実に向け努力してまいります。

保護者をはじめ、市民の皆様の一層のご理解、ご協力をお願いします。